

大阪インターナショナルチャーチ

2012年9月2日

ジョセフ・トッティス牧師

視界から消えると、頭からも、心からも消える（コロサイ 2：1－7）

コロサイ 2:1 あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。

使徒パウロは今日の聖書の箇所 of 著者ですが、信仰のゆえにローマの（使徒 28:16、30-31）刑務所に送られ（コロサイ 4：3）、そこで書簡を記し、ついには殉教の死を遂げました。パウロは、まだ会ったことがないにもかかわらず、今のトルコであるコロサイという街のクリスチャンに宛てて手紙を書きました。コロサイ 1：3 では、パウロは彼らことを神様に感謝し、彼らのために祈りを捧げました。

コロサイ 1:3 私たちは、いつもあなたがたのために祈り、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。

9 節では、彼らのために祈ることをやめないとも言っています。

コロサイ 1:9 こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。

私たちの中で、どれほどの人がいまだかつて会ったことのない人のために祈ったことがあるでしょう？

ときどきは祈られている方もいるかもしれません。

ですが、何人の人が、やめることをせずに祈り続けているのでしょうか？

なぜ私たちは、会ったことのない人のために祈り続けたいといけないのでしょうか？

あなたは、今世界の 40 カ国以上の国々でクリスチャンが迫害されていることを知っていますか？

いくつかの国々では、聖書を所持すること、信仰を語ること、改宗し子どもたちにキリストのことを教えることも違法です。

政府、法や強烈な反対に逆らい、大胆にもキリストに従う決意をした人たちは、嫌がらせや拷問を受け、逮捕されたり、ときには命を奪われることもあります。

さて、では私たちの問題とは何でしょう？

たぶんここにいる人たちはパウロのように祈りの戦士で、今日は私だけが“有罪判決”を

受けるべき人なのかもしれません。

なぜ私は“有罪”なのでしょう？

なぜなら、正直に言うと私は知っている人のことを祈るのでさえ時に億劫で、ましてや一度もあつたことのない人のために祈るのはとても難しいと思ってしまうからです。

視界から消えると、頭からも、心からも消える（コロサイ 2：1－7）

神様許してください！

でもこういうことはよく起こるのではないのでしょうか？

知っている人でさえ、文字通り、常に私たちの見えるところにはありません。

そして一度彼らの存在が私たちの頭から離れると、心からも離れていきます。

個人的には、だからキリストは聖餐式のパンとワインを制定されたのではないかと思っています。

パンは私たちのために裂かれたキリストの身体で、杯は私たちのために流された血潮を表しています。

イエス様は何と言われましたか？

これを行うたびに私を覚えなさい、と言われました。

私を忘れるなど、私があなたたちのためにしたことを忘れないようにと。

聖餐式は、神様がの偉大な愛を見て、味わい、触り、聴く、そういう時間なのです。

目に見えないから頭からも、心からも離れていくというのではなく、

目で見て(私たちの前にある対象として)

頭に入れ(神さまの偉大な愛を思い出し)

心におぼえる(ただ神様を信じるだけでいただける愛、許し、救いを受け入れる)

神様の愛を思い出す機会として、月に一度の聖餐式を待つ必要はありません。

でも、人間の悲しい性として、私たちは忘れがちですね。

でも、わたしたちにとって特別の人もあります。

そのような特別な人というのは、

不在だからこそ、ますます思いが募る人のことです。

離れている時間が長ければ長いほど、早く会いたいと切に願います。

そのような人というのは、私たちが忘れたい人ではなくて、忘れさせてくれません。

私たちに思い出させるために、何が必要でしょうか？

私たちはよく写真を撮って、家や会社に置いたり、財布に入れたり、パソコンや携帯電話の待ち受け画面にしたりしますよね。

宝石を身に着けたり、ソーシャルメディアで友達として登録することで、その人のことを覚えておこうとすることもあります。

また、彼らに私たちのことを覚えていてほしいからこそ、インスタントメッセージやメール、手紙、ポストカードを送ったりします。

文明の利器を用いて、電話やインターネット電話で会話をすることもあつてしょう。

なぜこういうことをするのでしょう？

なぜなら私たちが誰かのことを思っているほど、こういう悲しい現実があるからです。すなわち、「目に見えるところにいないと、心が寒々しくなる」というものです。

こういうことが起こってほしくないからこそ、私たちは努力するのです。

なぜかって？

なぜなら、彼らは私たちにとって大切な存在だからです。

だから、つながれるように時間をみつけ、時間をつくるのです。

でも、私たちはそれほど気にかけていない人のために時間を使うのでしょうか？

たぶんそんなことはしないはずですよ。

一度も会ったことも話を聞いたこともない人だったらどうでしょう？

やっぱり、そんな努力をしませんよね。

なぜ私は今こんなことを言っているのでしょうか？

というのも、今日の箇所を読むたびに、私はパウロが一度も会ったことのないクリスチャンに示した神の愛に驚いてしまうからです。

1 ヨハネ 4:20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。

コロサイのクリスチャンは地理的にはパウロから遠いところにいました。

でも、彼らは常にパウロの頭と心の中にいました。

パウロにとって、彼らのために戦うことは、価値あることだったので。

だからパウロはこうも書いています。

コロサイ 2:1 あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。

教会が攻撃されていることを知り、パウロは心配しており、コロサイの人々のために苦闘していると伝えます。

パウロは彼らが、以下のようなことを望んでいました。

コロサイ 2:2 それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。

パウロは、落ち込んでいるクリスチャンは世界の、肉の、そして悪魔の攻撃の的になることを知っていました。

使徒ペテロもこう忠告します。

1 ペテロ 5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

1 ペテロ 5:9 堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通って来たのです。

そうです、攻撃はいつも来る

でも、あなたは一人ではない。

私たち皆攻撃にさらされています。

今嵐の真ただ中にいるか、たった今嵐から抜け出したか、嵐がやって来ている途中か、ただその違いだけです。

でも落ち込むことはただ事態を悪化させるだけで、嵐の滞在時間を長引かせます。

もしあなたが落ち込みたくないなら、周りの人を励ますことから始めてください。

これはパウロがしたことだということに注目してください。

彼は死刑宣告を受けた獄中で、この手紙を書いていました。

彼は自身のことより他人のことを気にかけていたのです。

落ち込まずにすむ 10 の法を知りたいですか？

ステップ 1 は、他の人を励ますこと。

ステップ 2 は、ステップ 1 を 9 回繰り返してください。

苦しみのなかにあっても喜びを経験したいなら、

Jesus イエス様に優先順位を置き、

Others ほかの人を 2 番目に

そして、

Yourself 自分は最後に置くことです。

パウロは落ち込むことの危険に気づいていたので、信者同士が互いに愛で結びつけ合うことを望んでいました。

コロサイ 2：2にあるように、それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。

ソロモン王も同じようなことを言っています。

伝道者の書 4:12 もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない。

パウロは困難が来ることを知っていたからこそ、コロサイの人々を励まし、互いに愛のうちにとどまってほしいと思っていました。そうすれば、困難が来ても簡単には打ち負かされないと知っていたからです。

この愛とはあなたへの私の愛や、私へのあなたの愛ではありません。

そうではなく、ギリシャ語でアガペと呼ばれるものです。

神様の変わることのない愛であり、私たち自身ではどれほど頑張っても生み出しえないものです。これはヨハネ 15 章でイエス様が語られた通り、キリストにとどまることでしか実らない御霊の実なのです。

これは、私たちの違いや特異性をこえて、与えられるものです。

パウロは以下のように望みました。

コロサイ 2:2 それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。

多くのクリスチャンは救いの確証が得たいとものがくことがあります。

常にこう感っているんです。

私のクリスチャン生活ってこれでいいの？

本当に私って救われているの？

それは信仰や福音の理解が足りていないことから起こっているのではないのでしょうか？

でも、理解するのはそれほど難しいことではありません。

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

信じてください。それだけです。

パウロはコロサイの人へ、簡単に次のように説明しました。

1 コリント 15:3 私があなたがたに最もたいせつなことからして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

1 コリント 15:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、

理解できましたか？ 信じますか？

もし理解できて信じるなら、救いを疑う理由はありません。

なぜなら、

コロサイ 2:2b 理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。

コロサイ 2:3 このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。

パウロが、コロサイの人々に真に知ってほしい神の奥義とは何でしょうか？

当時教会を脅かしていたグノーシス派でないことは間違いありません。

グノーシスは、「知ること」を意味します。

何でも知っているという態度は、神秘的なことに関してもより高度な知識があるというふりをさせます。

彼らは、特別の人にしか明かされていない、秘密主義の神秘について語るかもしれません。

ですから、パウロはこのようなことがないよう、以下のように注意を喚起しました。

コロサイ 2:2b 理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。

コロサイ 2:3 このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。

パウロはここで、父なる神とキリストの両者について語っています。

そして、神の奥義については、コロサイ 1：27でより詳しく語っています。

コロサイ 1:27 神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。

イエス様のこの働きについては旧約聖書では明確に語られていません。特にユダヤ人でない異邦人にもイエス様の愛が伝わることについては明確に語られていません。

それは、イエス様と弟子の時代になるまでは知らされなかった「ミステリー」だったとも言えるでしょう。

ですが、これが、クリスチャンが持つべき栄光の望みです。

これは「私たちが神様のために何をしたか」についての話ではありません。

善行やデボーション、また卓越した知識は関係ないのです。

それよりも、イエス様の臨在の中にとどまり、生活をおくるということです。

キリストのうちにとどまるということが、栄光の望みなのです。

コロサイ 2:4 私がこう言うのは、だれもまことしやかな議論によって、あなたがたをあや

まちに導くことのないためです。
聖書は偽の預言者や教師について警告をしています。
イエス様は言われました。

マタイ 7:15 にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。

またペテロはこう言いました。
2ペテロ 2:1 しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも、にせ教師が現れるようになります。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを買い取ってくださった主を否定するようなことさえして、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています。
2ペテロ 2:2 そして、多くの者が彼らの好色にならい、そのために真理の道がそしりを受けるのです。
2ペテロ 2:3 また彼らは、貪欲なので、作り事のことばをもってあなたがたを食べ物にします。彼らに対するさばきは、昔から怠りなく行われており、彼らが滅ぼされないままでいることはありません。

遠い昔から今日に至るまで、多くの人が説得力がある欺きの言葉に欺かれてきました。驚くかもしれませんが、これらの言葉の大半が、聖書自身に端を発する物なのです。カルトは、文脈を無視して御言葉を用い、多くの人を欺くのに成功しています。悪魔は聖書を引用するのが私たちの誰よりもうまいことを忘れないでください。ですから、神様が何をおっしゃりたいのか正確に知るために、前後の文脈を考慮するのはとても大切なことです。説得力ある言葉で欺かれないように気を付けてください。使徒 17 章 11 節にあるように、パウロが言ったことでさえあっているかどうか聖書を確認しましょう。使徒の働き 17:11 このユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた。

毎日聖書を調べたという言葉に注目してください。
聖書の正しい理解というのは、常に聖書の他の箇所と関連しています。
ですから、聖書の理解にはほかの箇所を参照することが必須なのです。

1つの聖句をみて解釈したり結論を急いではいけません。
聖書すべてを考慮しましょう。
聖書の一番の参考書は聖書自身なので、

コロサイ 2:5 私は、肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序とキリストに対する堅い信仰とを見て喜んでます。

偽教師や偽の教えの攻撃の中にありながら、彼らのキリストへの信仰がゆるぐことがなかったため、パウロは喜びました。

コロサイ 1 章で、パウロは神に感謝し、彼らのために常に祈ります。

コロサイ 1:3 私たちは、いつもあなたがたのために祈り、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。

キリストへの信仰や、聖徒に対する愛について聞くとき、

コロサイ 1:4 それは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛のことを聞いたからです。

また、天の望みのゆえに、

コロサイ 1:5 それらは、あなたがたのために天にたくわえられてある望みに基づくものです。あなたがたは、すでにこの望みのことを、福音の真理のことばの中で聞きました。

信仰、希望、愛

この3つは、クリスチャン生活において、追求すべきものです。

私たちが知っておくべき資質です。

でもこれらの資質を知っていても、攻撃を避けられるわけではありません。

注意していないとやられてしまいます。

だからパウロはこう語りました。

コロサイ 2:6 あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。

イエス様を信仰によって受け入れ、人生のいかなるときにも、信仰によってキリストとともに歩むのです。

イエス様との親しい交わりのうちに歩むときに、私たちは以下ようになります。

コロサイ 2:7 キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおりの信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。

あなたは最近感謝していないかもしれません。

最近イエス様を見ることに困難を覚えているかもしれません。

心が他のものに奪われていて、むなしい思いをしているかもしれません。

寒々しいほどの人もいるでしょう。

最近イエス様が視界から消え、頭からも心からも離れていませんか？

でも、覚えておいてください。あなたはイエス様の視界からも頭からも心からも消えてい

ないということを。

イエス様はあなたを愛しています。

そして、よい知らせとはこのことです。

あなたは今日教会に入って来た時のようには出ていきません。

イエスキリストが、今日あなたとともにこの扉を出ていくでしょう。

ただ、こう質問させてください。

あなたはキリストとともに歩んでいただきたいですか？ それとも、そうは思っていないか？

コロサイ 2:6 あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。

コロサイ 2:7 キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおりの信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。

選択権は私たちにあるのです。

お祈りしましょう。